

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 愛知県一宮市立宮西小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒491-0044
一宮市大宮4丁目5番33号
E-mail miyani-e@city.ichinomiya.aichi.jp
Website http://www.school.city.ichinomiya.aichi.jp/miyani-e/
幼児児童生徒数 男子 311名 女子 317名 合計 628名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、「夢と力と思いやりのある子を育成する」を学校理念として、ESDを現在から将来まで、長く幸せに暮らすことのできる社会の担い手を育む教育と捉え、ESDの実践を通して、地球上の人々やこれから生まれてくる子どもたちが、長く幸せに暮らしていくために、みんなで調べたり考えたり、意見を出し合ったりして学ぶ力の育成を目標とした。

具体的には、国際交流、伝統文化体験、平和・人権学習、環境教育を柱に、①ニュージーランド・イタリア国際交流に係わる活動、②伝統文化に係わる教育、③平和・人権に係わる学習、④環境教育に係わる学習を行った。

① 国際交流に係わる活動

一宮市の国際交流員であるニュージーランド人講師やイタリア人講師を招き、外国の行事や習慣を知ったり、異なる文化について学習したりした。交流を通して、国際理解の基礎を養った。

② 伝統文化体験に係わる教育

校区内にある真清田神社より職員を招き、雅楽の演奏をしてもらった。児童は、雅楽鑑賞を通して、日本の伝統文化に親しんだ。また、地域の方々を講師に招き、児童は実際に茶道の立居振舞、礼法、点前を学んだ。茶道に込められた日本の文化・伝統に親しんだ。

③ 平和・人権に係わる学習

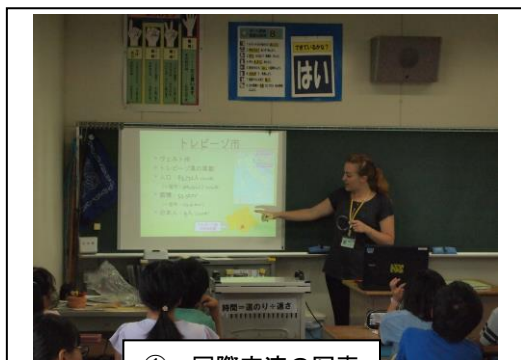
アフリカへ毛布を送る運動として、生活に苦しむ人たちに対して自分たちにできることはないかと代表委員会で話し合いを行った。ポスターを作成し、呼びかけ強化週間を作って毎朝正門に立ち、全校児童に呼びかけた。この活動を通して、生活で苦しむ人たちのために貢献しようとする気持ちを育てることができた。

人権週間での取り組みとして、学校全体で人権について考える週間とし、学校全体でいじめストップ運動を行い、各学級で人権について学習した後、各クラスでスローガンを考え、全校集会でいじめストップ宣言を行った。

④ 環境に係わる学習

年間を通してペットボトルキャップの回収を行った。各教室や昇降口前にエコキャップボックスを設置したり、委員会の児童がポスターや昼放送で啓発を行ったりすることで、進んで協力する児童の姿が増えた。

また、資源として再利用できる名刺サイズ以上の大きさの古紙を入れる箱(リサイクルボックス)を各教室に設置し、たまった古紙を委員会の時間に回収し、古紙の量を調べた。この活動により、むやみに紙ごみを増やすことをなくし、限りある資源の有効活用について考えることができた。



① 国際交流の写真



② 伝統文化体験の写真



③ 平和・人権に関する活動の写真



④ 環境教育の写真

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

特にありません。

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

各学年の教育活動（教科授業、総合的な学習、学活、行事、特別活動等）の中で、1、2年生では自然、3年生では食育、4年生では環境、5年生は福祉、6年生では国際理解と学年に応じた活動を行っている。年度当初に各学年でテーマを決め、その際に、子どもたちへ効果的に学習させるために、どの教科の単元で取り組めばよいか学年で話し合った後、実践を行う。それらの積み重ねを年度末に、学年の実践内容を振りかえり、次年度へつなげるように取り組んでいる。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

本校では、ユネスコスクールとESDの学校活動を取りまとめる担当者を決めており、その担当者を中心に学年主任と相談し、年間計画を立てていく。その後、職員会でユネスコスクールとESDについての共通理解を図るとともに、各学年で決めた年間計画を提案し、検討を行う。年度末には、担当者が各学年で実践されたことを各学年に確認し、問題点や改善点等を聞き取り、文章にまとめていき、次年度の担当者へ引継ぎができるよう文書管理している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

ユネスコスクールとしての活動の質の向上について、学校活動の評価を行っていません。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本校のホームページにおいて、ユネスコスクール及びESDのページを設け、各学年で取り組んでいた活動の様子を写真とともに発信した。発信により得られた効果は特にない。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

学校以外の団体と交流をとっていないため、記述できず。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

国内外のユネスコスクールとの交流をとっていないため、記述できず。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

ユネスコスクールの活動目的にある「地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展を目指すこと」を全職員で年度当初に毎年確認することで、各教科で行う学習に対して、地球に住む子どもたちが知ったり、考えたりする必要があるということを意識して学習指導を行えるようになった。例えばESDは5年生の社会科で学習した際、4年生で学習する環境のことと結び付けて考えることができた。系統的なつながり、各教科間のつながりをユネスコスクール及びESDに取り組むことで教員が意識することができた。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

ユネスコスクール及びESDを念頭にした活動は行う予定はありません。